

アトサヌプリ

1 概況

溶岩ドームの周辺で噴気活動が継続しています。

2 上空からの観測結果

2月16日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、溶岩ドームの周辺で噴気活動が続いており、その状況に変化はありませんでした。



北西側上空から撮影したアトサヌプリ、右手前はマクワンチサップ

参 考

アトサヌプリは約10000年前以降、多数の溶岩ドームを形成しており、約5500年前には火砕流が発生しています。アトサヌプリでは数百年前に最後の噴火活動があり、新期溶岩ドーム山頂部に「熊落し火口」と呼ばれる直径約150mの火口が形成されました。

新期溶岩ドーム周辺には多数の地熱域が分布しており、100℃を超える噴気温度が観測されています。

1994年の3月～10月にかけて、アトサヌプリ付近を震源とする地震活動が活発化しました（有感地震18回、最大M3.2）。